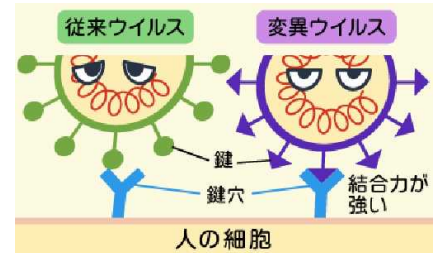


オミクロン株コロナウイルスの感染拡大予防策を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. (1)11月初旬にアフリカ南部地域などで検出されたオミクロン株コロナウイルスの感染スピードは速く、イギリスでは新規感染者の約半数にまで達したようです。



(2)日本政府もこのオミクロン株コロナウイルスの感染スピードの速さに危機感をつのらせ、12月中は日本人帰国者を除き、海外からの日本への渡航を全面的に禁止しています。

(3)ただ一度、日本国内に感染者が入った場合は、その感染スピードは凄まじく、おそらく1～2か月で日本の新規感染者の大半がオミクロン型で占められると予想されます。また、日本での新型コロナウイルスの新規感染者は11月に入り激減し、日本全国で100名台の日が1か月以上続いています。

2. 欧米諸国やアジアの多くの国では、毎日数千～数万人の新規感染者がみられていますが、多くの国では感染者が数千～数万名で感染が拡大することはあっても余り減ることがないにも関わらず、なぜ日本では毎日の感染者が100名台と少ないのか。



(1)その理由の第1は、日本人の多くがBCGの接種を済ませていることに加え、新型コロナに対応したワクチン接種が8割にまで近づいていることと考えます。

(2)第2は、この夏まで行ってきた①マスクの着用や②手洗い、③ソーシャルディスタンス、④換気など基本的な感染対策はやってはいたものの十分ではありませんでしたが、この夏の感染爆発で①～④などの感染対策の必要性をほぼ全国民が自覚、本気度・徹底度が増したためと考えます。

(3)第3は、幼児から高齢に至るまで①～④の感染対策が生活の一部となり、何の違和感のない状況に至ったためと考えます。



3. そうはいうものの新型オミクロン型の感染スピードは凄まじく、第 6 波の襲来は時間の問題です。さきほど述べた①～④の感染対策を全国民が更に徹底させ、第 6 波の襲来時期を 1 日でも遅らせると同時に、第 6 波襲来に備え、行うべき準備を最大限整えることが大事と考えます。

(1) その第 1 は、第 6 波襲来前に国民 8 割以上に第 3 回接種を終えることです。

選挙人名簿を活用して指定した日時・場所での接種を原則とし、集団接種を例外的に行うことです。接種できる医療、資格を持つ人々は公民として協力することを首相や知事・市町村長が強く要請することが肝要です。



(2) その第 2 は、第 6 波襲来に備え、全国の空いている公共施設(例えば、全国に 5000 余りあるといわれる小学校の廃校)を活用し、野戦病院を準備すること。

(3) 第 3 は、コロナ禍のリモートワークに備え、日本全国の Wi-Fi 環境を国や自治体の予算、Wi-Fi 国債を発行してまでも整備することです。



① Wi-Fi 環境を整える技術者を早急に育成することです。Wi-Fi 環境の整備なくしてリモートワークは成立しない。



② Wi-Fi 環境の整備で地域間の IT 格差は大幅に縮小され、地方創成が現実味を増します。

③ただし、Wi-Fi 環境整備の技術者がいなくては整備はできません。地方に行けばいくほど、技術者は少なくなりますので、地域を挙げてのスキルアップ研修が求められます。

4. 最後に読書によって得られる力は何かをお話します。

(1) 読書、特に、各分野の「古典」と呼ばれる本を腰を据えてじっくり読む本格的な読書からは、「時空を超え、筆者と対話する能力」が得られます。例えば、「論語」や「孟子」、「大学」や「中庸」など「四書」と呼ばれる中国の古典を 1～2 か月かけ、何回も繰り返しじっくり読み込むと、2000 年以上前の孔子や孟子、その弟子たちと「時」や「空間」を越えた対話をすることができます。



(2) また、読書からは「思慮深さ」「自分を振り返る力」「^{しょうさつ}省察する力」を得ることができます。ものごとを深く考える力、自分自身の人生を振り返り、1 つ 1 つのものを長期的なスパンで考える力を得ることができます。

(3) 更に、人として行ってよいこと、よくないことは何か、勇気とは何か、正義とは何かなど倫理的にものごとを考えることができます。

(4) ものごとを行うときに、このやり方と別のやり方とどちらのやり方がよいのか、比較考^{こうりょう}量、大切さを天秤にかけて冷静に考える力を得ることができます。

(5) 2021 年ももう 2 週間となりました。是非、これぞという本を一冊、じっくり読み込み、この一年を振り返り、新しい 2022 年にお備えください。



— 2021 年 12 月 16 日記 —